

今後の市史編さん事業について

～沼南通史以降の市史編さん事業企画（案）～

令和5年1月18日（水）

令和4年度第2回柏市史編さん委員会

柏市教育委員会
生涯学習部 文化課

柏市における市史編さん事業の目的（再確認）

－ 1 －

- 4 市史編さん事業の目的
市史編さん事業の目的は次のとおりとする。
- (1) 近世・近代における行政の区分を超え、広い視野から柏の歴史的な位置を明らかにする。
⇒俯瞰的視点で歴史をとらえること。
- (2) 市民が地域理解を通じて愛郷心を高める基盤とし、継続的に市民自らが行うまちづくりに役立てる。
⇒市民が使いこなし、まちづくりに役立つ事業であること。
- (3) 新たに確認された歴史資料の検証を通して、柏の歴史や伝統文化を改めて見直すことにより、本市の発展及び文化の向上に資する。
⇒過去・歴史をヒントに、市民とまちの発展をさせていくこと。
- (4) 柏に関する古文書・考古資料・写真・金石史料・伝承等の有形・無形の歴史資料を整理・保存・管理し、後世に伝えるとともに、現在及び将来の活用を図る。
⇒現在だけでなく将来も活用できるよう、有形無形の文化財を大切に保存すること。

柏市史編さん計画の経緯

年度	内容
平成12年	旧柏市側にて『柏市史』完成。 通史編さん事業の一応の終結により、柏市史編さん委員会解散。
平成17年	旧沼南町との合併。 ⇒同町部分の編さん事業継続のため同委員会復活。 ⇒沼南通史刊行を目的に資料集等、市史刊行事業再開。 『柏市史（沼南町史 近代史料）』（H19） 『柏市史（沼南町史 史料集金石文Ⅲ）』（H21） 『柏市史研究 創刊号』（H23） 『柏市史研究 第2号』（H25） 『柏市史（古代・中世文献資料）』（H27） 『柏市史（原始古代中世 考古資料）』（H30）
令和4年	平成17年度からの事業の集大成として『沼南通史』刊行

平成29年度時の柏市史編さん計画～『沼南通史』後～

市史刊行計画(四半期別)

(平成27年2月24日、柏市史編さん委員会承認)
 (平成27年11月20日変更、柏市史編さん委員会承認)
 (平成28年5月23日変更、柏市史編さん委員会承認)

	19	21	23	24	25年度				26年度				27年度				28年度				29年度				30年度				31年度				32年度				33年度				34年度以降			
	4期	4期	4期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期				
近代編	刊行																																											
金石史料Ⅲ	⇒	刊行																																										
古代・中世文献史料					執筆	編集	⇒	⇒	⇒	業者選定・印刷製本契約・入稿	校正(1~3校)編集	校正(4~5校)印刷	⇒	刊行																														
原始・古代・中世考古資料					執筆	執筆	⇒	⇒	⇒	編集	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒			
通史編(旧沼南)																																												
吉田家文書史料集																																												
史料集近現代編(旧柏)																																												
芳野金陵史料集																																												
市史研究																																												
歴史ガイドかしわ第2版																																												
写真集																																												

平成29年度第1回柏市史編さん委員会(4/25) 会議資料より。

- ・吉田家文書史料集や史料集近現代編(旧柏市)、芳野金陵史料集、市史研究(かしわの歴史-柏市史研究-第3号)等が計画化。
- ・ただし刊行順番や時期については未定。
- ・上記以外にも各時代・各分野・テーマごとに、研究者や市民から個別要請あり。



※古代中世文献史料・原始古代中世考古資料については掲載範囲を旧沼南地域に限定せず、旧柏地区も含める。

柏市史編さん事業を取り巻く課題

- 4 -

- 市民，市職員の理解・関心度向上（参考資料1）
- 知識・技能の承継問題（参考資料2）
- 旧柏市の戦後史及び，最新の情報や研究を反映・包含した『新・柏市史』（柏市史改訂版）刊行

令和3年度第1回柏市史編さん委員会 副委員長意見：

「柏市史，沼南通史の刊行をもって市史は完結したとの認識は改めていただきたい。柏市史近代編は戦争（敗戦）で終わっている。柏が一番変化を遂げた戦後の高度成長や現在までの記述を全くやっていない。戦後の資料を集め，通史をきちんと刊行してほしい。」

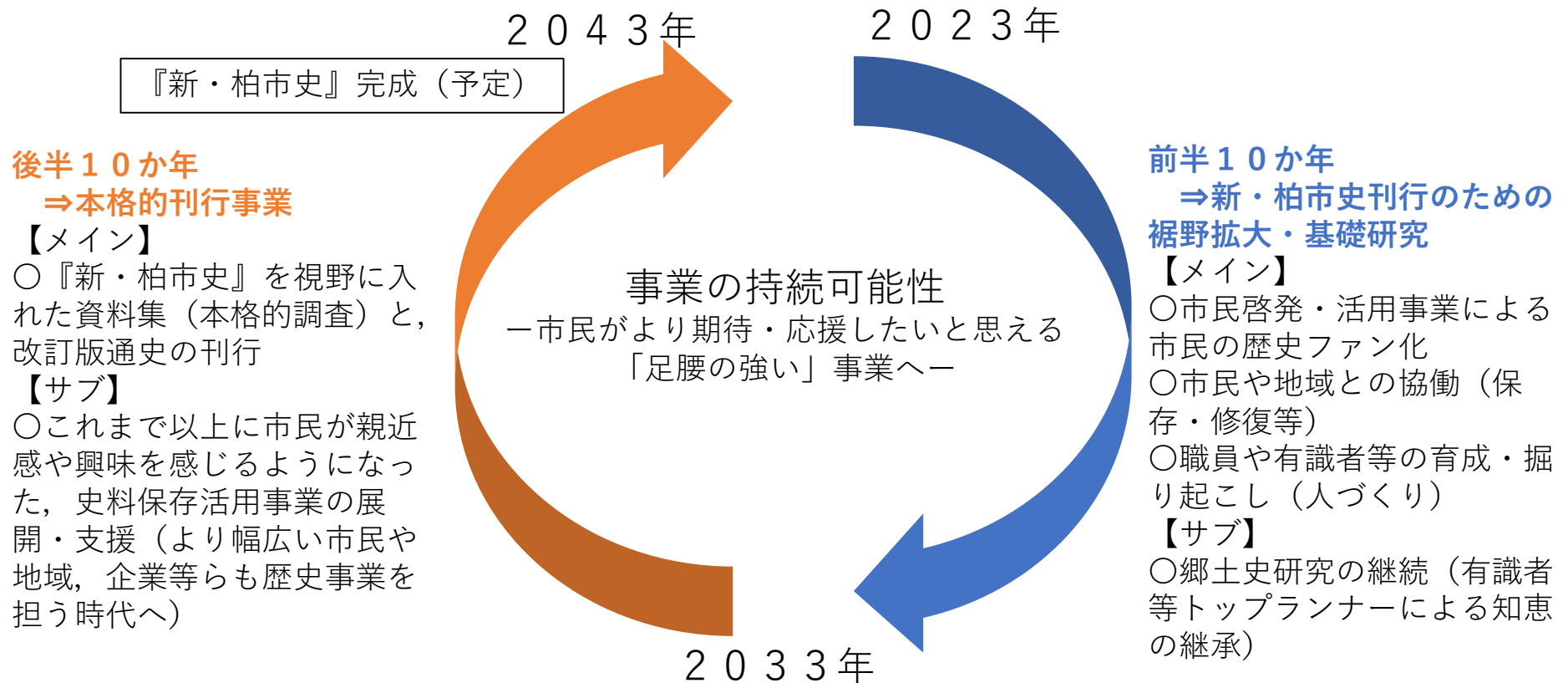
柏市教育委員会として

柏の歴史を途絶えさせることはできない。

今後の市史（『新・柏市史』）刊行事業構想 - 5 -

- 一般的に『通史』更新は約30年サイクル（20～40年）。今年は...
- 『柏市史（旧柏市）』完成から23年経過。
- 『沼南通史（旧沼南町）』完成年。（記述上はごく一部だが旧柏市域も新規に触れている）

『新・柏市史』刊行を20年後（2043年）とする場合の
事業スケジュールイメージ



当面5か年の市史編さん事業の方向性（案） - 6 -

- 市史編さん事業において、「市史刊行事業」と「史料保存活用事業」は両輪一体。

市史刊行事業 （専門研究）	<ul style="list-style-type: none">●研究誌（P50～100・1C）の刊行（毎年もしくは隔年）<ul style="list-style-type: none">・H29計画時の市史研究誌『かしの歴史－柏市史研究－1・2号』の後継として、紀要的な刊行物を制作し、各時代それぞれの調査・研究を継続（目的：専門性の保持と新情報・新説の発表）。・論文集という特性上、執筆者間の調整・全編統一化業務等ほぼ要しないため、コンパクトな事業化（＝定番化・継続化しやすい。）
史料保存活用事業 （市民向け活動）	<ul style="list-style-type: none">●史料整理・修復ボランティアの拡大（市民協働事業）●史料保存技術（防虫防カビ・災害等）・検索性（収蔵史料のデータベース化）の向上●歴史写真展や企画展等、既存事業の情報発信力強化●市民のニーズに応える、Webコンテンツの企画と公開史料の拡充●学校授業での教材化（郷土史情報・史料のデジタル提供）●文化課職員等が学校へ出張して行う郷土史教育の支援・パッケージ化（学校現場への人的支援）●市職員・教師の啓発研修，自己研さん●文化財保存活用地域計画における具体事業の立案・支援・調整対応（参考資料3）

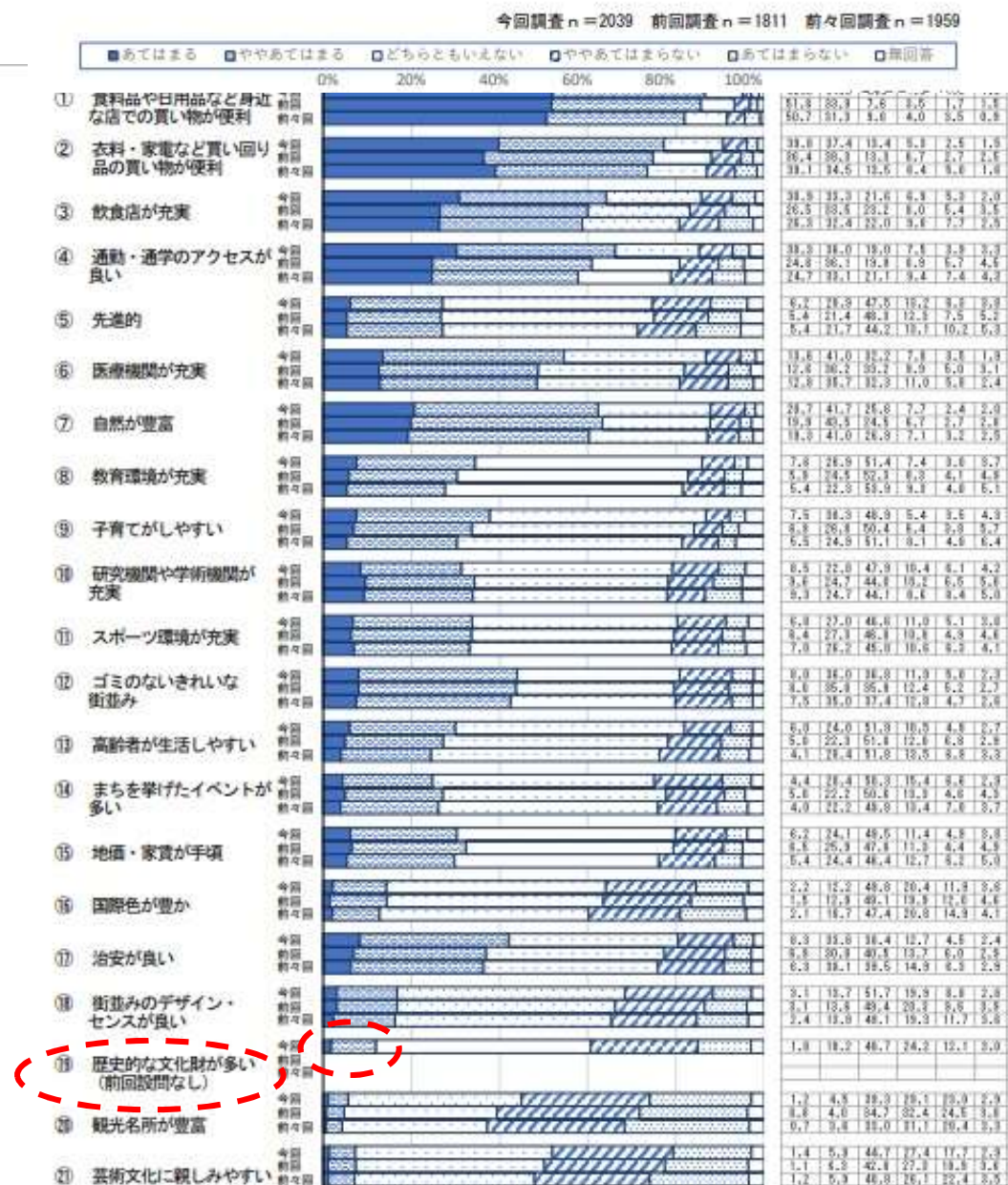
令和5年度の市史刊行事業について

- 7 -

- 沼南通史刊行事業終了及び、現委員任期満了（令和5年6月30日）をもって、柏市史編さん委員会は休会。
 - － 柏市附属機関等組織運営要領 第4条 次の各号に掲げる項目に該当する場合は、原則として附属機関及び懇談会を廃止又は統合するものとする。
 - (1) 所期の目的が既に達成されている場合
- ただし常設の組織体制ではないが柏の歴史を絶やさないうよう有識者の方々には随時、参与として委嘱させて頂き、引き続き専門的見地から指導助言、調査執筆等を頂く。
 - － 令和6年度からの研究誌刊行事業（調査・執筆・印刷製本）に向け、令和5年度中にそのテーマ選考方法等を協議する会議を数回開催予定。
（例：未完の旧柏市戦後史もとらえた『新・柏市史－現代編－』（昭和・平成・令和の百年間）の先行・優先刊行を踏まえたページ構成等）
 - － その他、史料保存修復・市民啓発事業等に関する指導・助言。
- 令和6年度からの刊行事業準備業務（企画・予算措置）。

參考資料

資料1-1) 市民の歴史分野に対する認識



市民に歴史的な地域資源やその魅力が、十分に浸透されていない。

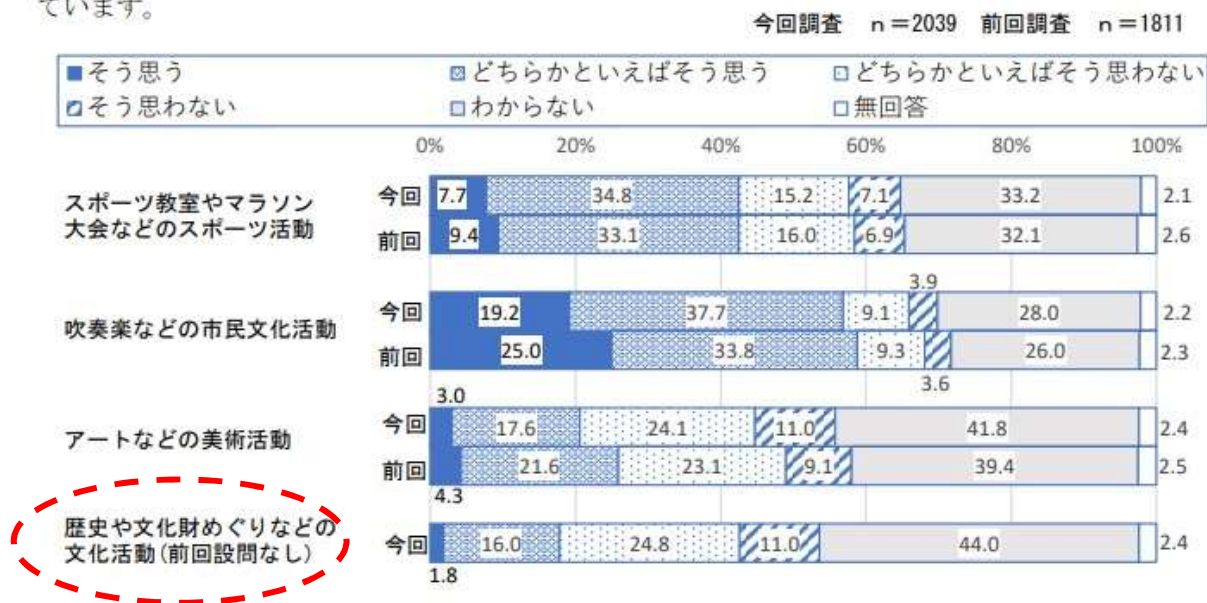
Q. 柏市のイメージについてお答えください。(令和2年度まちづくり推進のための調査)

- ・「歴史的な文化財が多い」について「あてはまる」+「ややあてはまる」と回答した積極的評価層は12%。
- ・他の評価項目との相対的位置づけも低いのが現状。

資料1-2) 市民の歴史分野に対する認識

Q. 柏市は次の活動やイベントが盛んだと思いますか。
(令和2年度まちづくり推進のための調査)

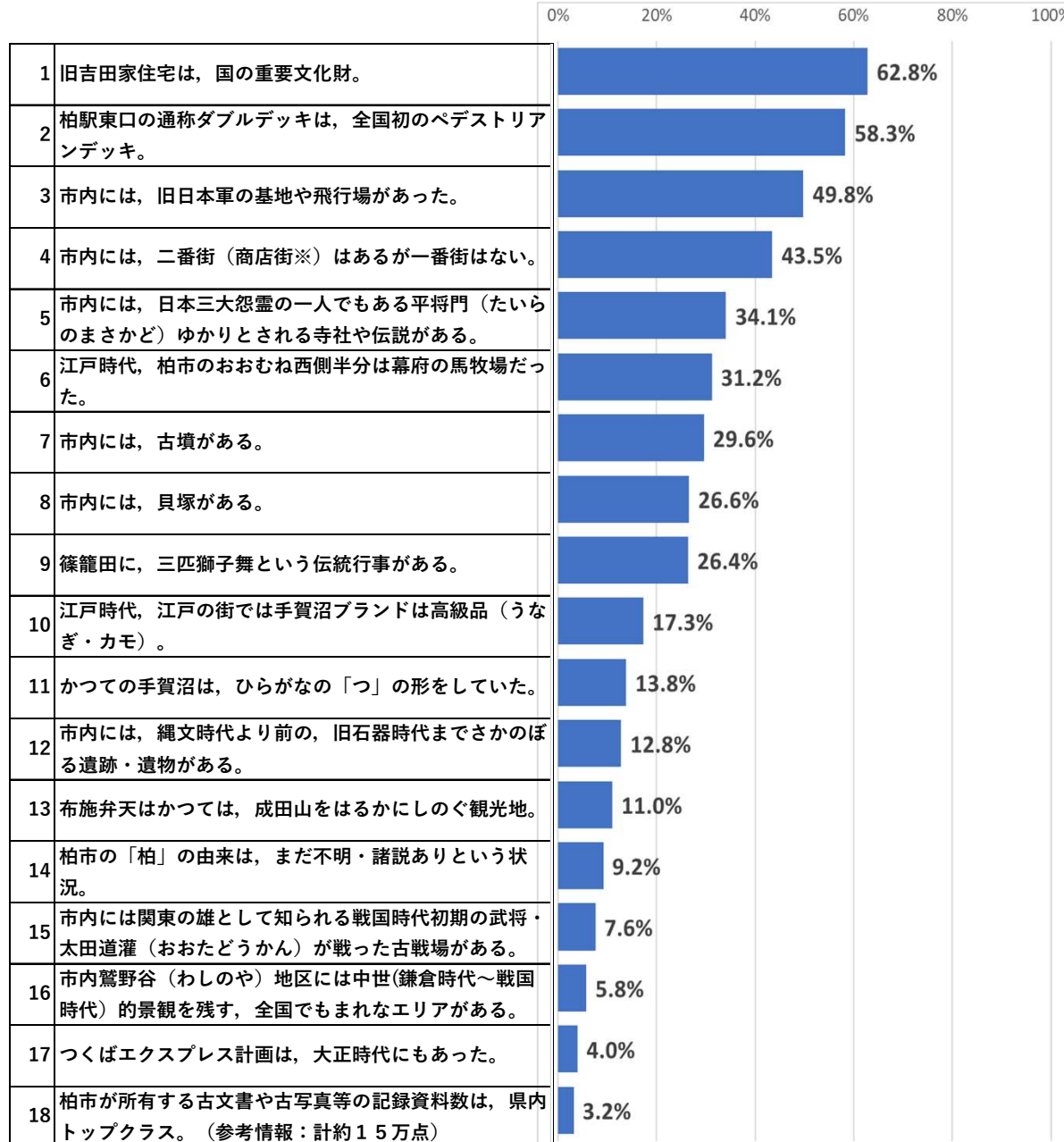
ています。



- ・ 「歴史や文化財めぐりなどの文化活動」について「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」と回答した積極的評価層は17.8%。
- ・ これも他の生涯教育活動との相対的位置づけは低い。

市民感覚では、柏には地元の歴史を知る機会や接点（コンタクトポイント）がまだ少ないという受け止め。

資料1-3) 市職員の歴史分野に対する認識



せめて市職員なら知ってほしいと期待される郷土史情報も、十分浸透していない。

・仕事柄、地元情報に詳しいはずの市職員へ全庁アンケート実施。（庁内ネットワーク使用により2,972人中回答者1,286人。回収率43.3% R4.6.9～R4.6.15）

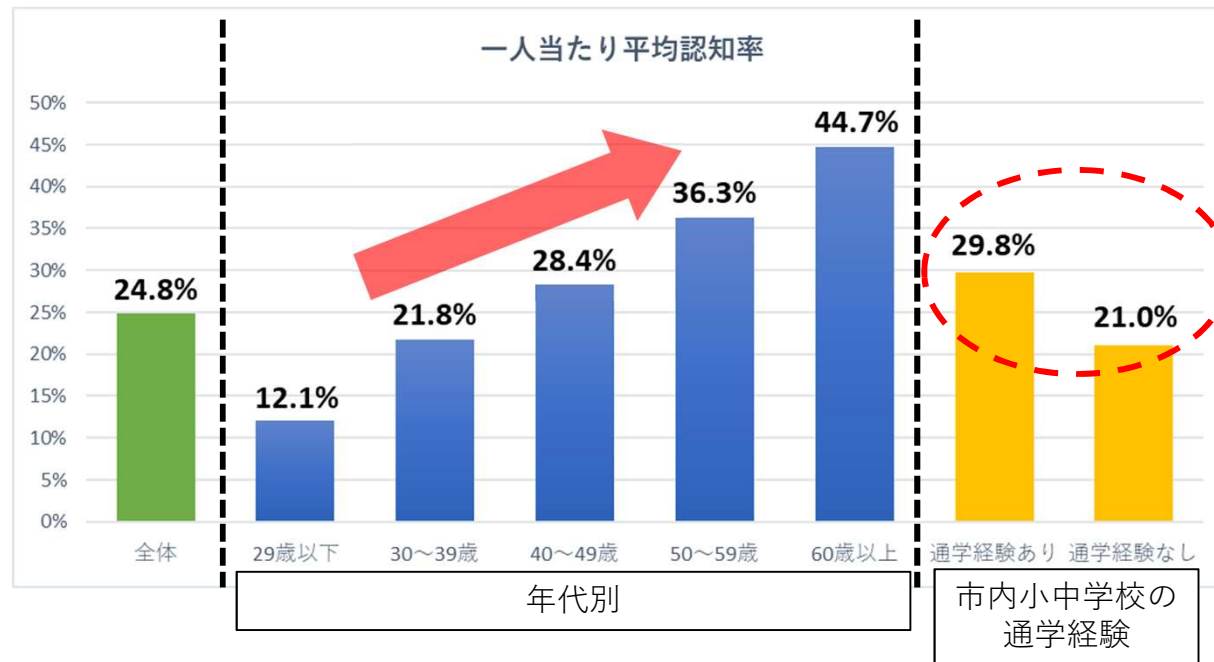
・全18件中、一人当たり平均認知率24.8%（4.5件）。



一般市民はその半分、場合によっては認知率一桁%の可能性も？

資料1-4) 市職員の歴史分野に対する認識 - 12 -

市職員対象の郷土史情報認知状況アンケートのクロス集計結果



- ・年代別にみると、市職員としてキャリア・在職経験（豊富な人生経験）を重ねると、自ずと郷土史（含めた地元情報）にあかるくなるようである。
- ・市内小中学校通学経験の有り・無し別にみると、8.8ポイントの差がみられる。社会科授業等の中で触れた経験が、地元情報認知率に影響していると思われる。

「学校教育」，そして子ども（子育て世代）にとって「咀嚼しやすい情報・体験機会」を提供することは、市民がより力強く後押ししてくれる市史編さん事業の遂行上、重要事項の一つと考えられる。

資料1-5) 学校現場の実情—市内小学校の場合— - 13 -

●現代版（令和的）授業内容（一部）

柏市教育委員会（指導課）調べ

<p>従来の（昭和的） 授業科目</p>	<p>外国語（英語） プログラミング教育 情報・ネットリテラシー教育 総合的な学習 原子力・放射能教育 ハンセン病教育 金融教育 拉致問題・領土教育 消費者教育 キャリア教育 性自認・LGBT教育 インクルーシブ（障害児）教育</p>
<p>外国籍児童の日本語教育 虐待・育児放棄世帯 不登校児童 病欠等欠席児童へのオンライン特別対応 知能や発達面で配慮を要する児童への対応 アレルギー児の個別対応 近隣住民へのコミュニティースクール運営</p>	

授業外・
個別対応

学校現場は教師も児童も手いっぱい！

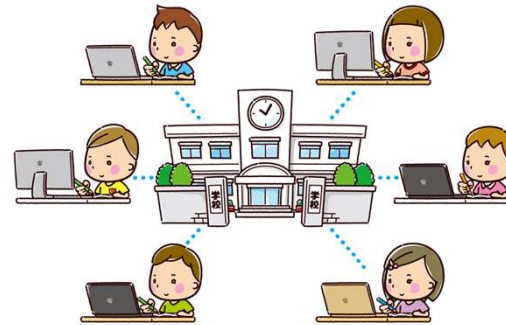
資料1-6) 学校と文化課の連携強化

	学校教師	文化課
児童教育・指導の技術	○	×
日本史習熟	○	○
柏の歴史習熟	×	○

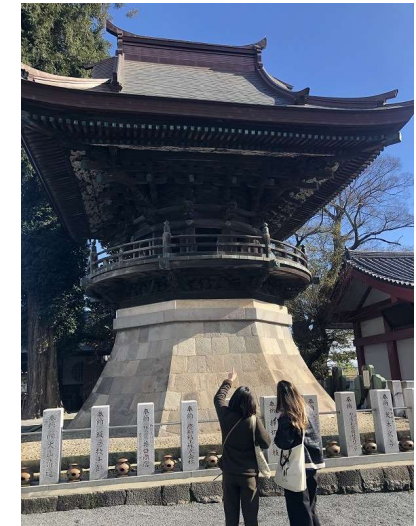
得意・不得意分野を補完し合い、学校・教師側の支援役として、郷土史教育（知る・触れる・体験する）の授業パッケージ化を目指す。



土器・勾玉づくり体験



昔の生活・米づくり授業



市内大学との連携による、若者視点の市内歴史・文化財PR手法研究

資料2) 知識・技能の承継問題

令和元年度第1回柏市史編さん委員会

□委員長意見：

「古文書の学芸員はどここの市でも育っていない。…できるだけ長く専門的に関われる学芸員配置も、事務局では考えて頂きたい。」

⇒専門性を有する市職員の不足

□委員意見：

「史料保存活用事業は、我々世代で固定化しているのが課題。若い世代の取り込み・育成（が必要）」

⇒市民レベルの歴史保全・継承活動者の担い手不足

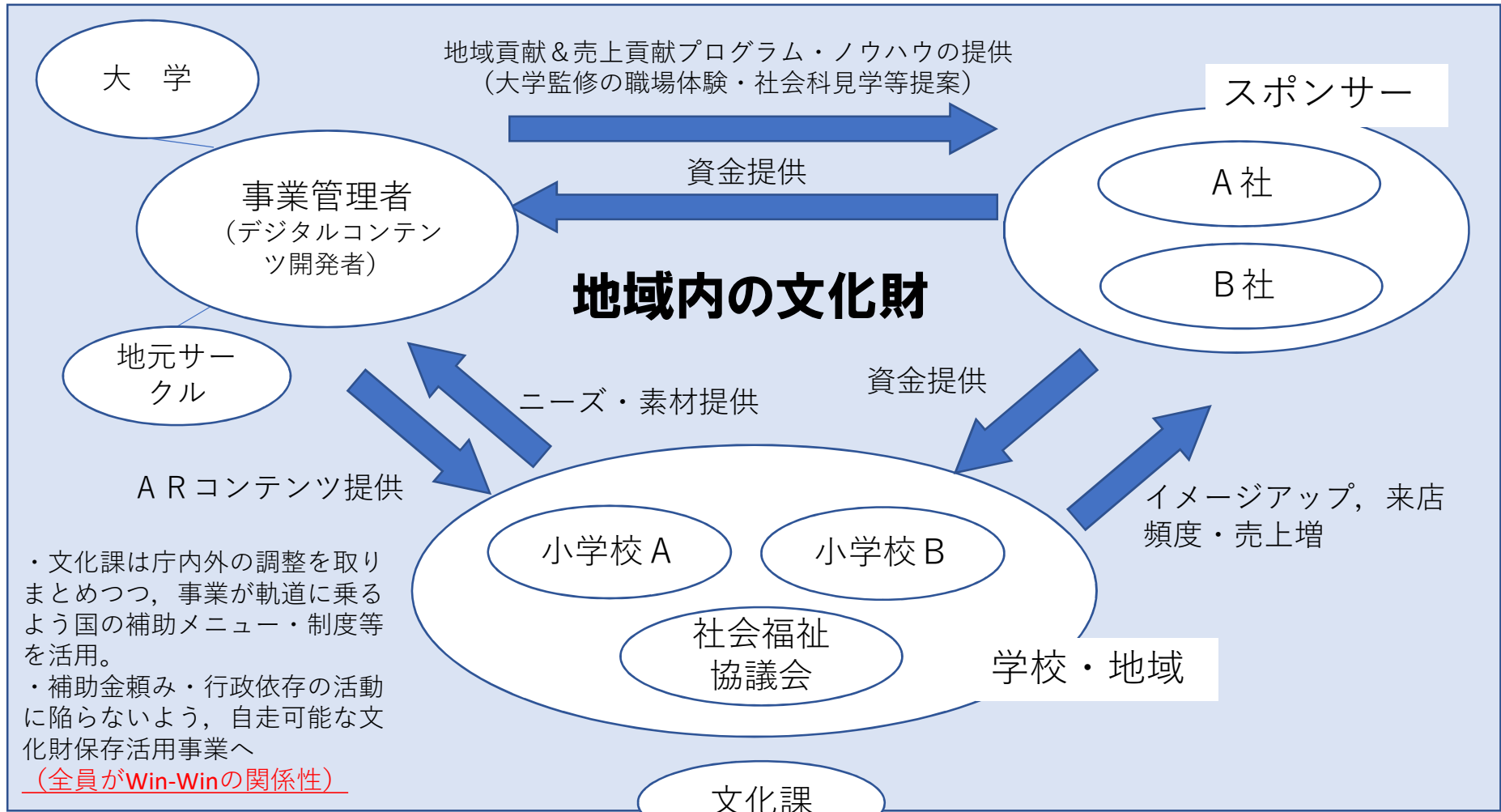
資料3) 柏市文化財保存活用地域計画

- 16 -

- 古文書や古写真，記録資料含む文化財の保存活用（ソフト事業メイン）について，国が補助金や専門人材派遣等，資金的・人材的支援をする制度。
- 文化財保護法改正（平成30年度）を受け，従来は国・県・市等が指定するものしか公的支援ができなかった文化財行政から，例えば路傍のお地蔵さんでも地域にとって貴重な宝であれば（未指定文化財），その保存・活用に国庫投入も可能な革新的な制度。
- ただし，その制度活用については自治体行政だけでなく，地元歴史サークルや保存団体，自治会等の地域・地縁団体，企業等がそれぞれ主体的に役割分担を担うことが条件。
- また，自治体の歴史・文化財的地域性を踏まえた計画の策定と承認が必要。
- 本市では令和5年度（5月予定）計画承認に向け，これまで柏市文化財保存活用地域計画作成協議会を随時開催し，意見聴取しながら策定中。

地域計画・文化財 A R 事業イメージ (具現事業・先行事業として検討中)

A R : Augmented Reality (拡張現実) : スマホやタブレット等デジタル機器を現地でかざすと、現実にはない、かつての城郭や寺社、偉人等が画面内に再現投影、説明するシステム



- 図書館
- 指導課
- 商工振興課
- 農政課
- 市民活動支援課
- 都市計画課
- 経営戦略課

